DiaMond Seminar in KAWASUMI

循環器内科医が語る、糖尿病診療のこれから

『愛知県糖尿病療養指導士（aichi-CDEL）認定更新のための研修会』 1.5単位

参加登録はコチラ

日時 2024年4月11日（木）19：30～21：05

形式 WEB配信（Zoom）

〈ご確認事項〉
- ご視聴を希望される方は、２次元コードもしくはURLよりご登録下さい
  URL：https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_8z1wlII-RsyM6ucimfZ7Ug
- ご登録完了後、メールにて参加方法の詳細をご連絡いたします
- 開催1週間、1日、1時間前にリマインドメールが届きます
- 愛知県CDEL単位ご希望の方は、**開始3分前**より1回目、講演会終了時に２回目の出席確認を実施いたします
- ご連絡いただく「個人情報」は本会運営の目的のみに使用させていただきます

PROGRAM

全国ライブ配信

19:30～20:30

DiaMond Live Seminar

～２剤の力で切り拓く糖尿病の早期治療～

座長

順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学 教授

綿田 裕孝 先生

講演 I

２型糖尿病における血糖正常化を目指した早期治療の意義

信州大学医学部 糖尿病・内分泌代謝内科学 教授

駒津 光久 先生

講演 II

進化する糖尿病薬物療法 ～配合薬の有用性を考える～

川崎医科大学 名誉教授／川崎医科大学総合医療センター 特任部長

加来 浩平 先生

配信切り替え

東海エリアへ配信

総合座長

奥田内科クリニック 院長

奥田 宣明 先生

特別講演

20:35～21:05

循環器専門医から見た糖尿病治療の期待と可能性

おがたファミリークリニック 院長

緒方 正樹 先生

〈問い合わせ先〉
「DiaMond Seminar in KAWASUMI」事務局：kosuke-noda@sumitomo-pharma.co.jp

主催：住友ファーマ株式会社
SMP-Approved

DiaMond Live Seminar
～2剤の力で切り拓く糖尿病の早期治療～

全国ライブ配信パート 抄録

講演 I

2型糖尿病における血糖正常化を目指した早期治療の意義

信州大学医学部 糖尿病・内分泌代謝内科学 教授

駒津 光久 先生

1986年 3 月　信州大学医学部医学科卒業
1990年 4 月　日本学術振興会特別研究員
1991年10月　厚生連篠ノ井総合病院内科
1992年 9 月　米国コーネル大学薬理学教室助手
1996年 9 月　信州大学医学部附属病院老年科
2003年 7 月　信州大学大学院医学系研究科加齢病態制御学講師
2010年 4 月　信州大学大学院医学系研究科加齢病態制御学教授
2012年 4 月　信州大学医学部糖尿病・内分泌代謝内科学教授

2型糖尿病の診断後、非高齢者で合併症がなければ、早期から糖尿病を持たない人と同じ血糖域を目標とした血糖マネジメントが極めて重要です。実際、治療開始が3年おそくなると、同等のコントロール状態でも心血管イベントの発症は明らかに増加することが示されています。[1] また、厳格な血糖コントロールが従来考えられているよりはるかに合併症抑制に有効であることがメンデリアンランダマイゼーションを用いたACCORD試験の追加解析で明らかになりました。[2] VERIFY試験は早期のメトホルミンとDPP4阻害薬の併用の重要性を示しました。2型糖尿病患者は糖尿病をもたない人とかわらない血糖範囲を維持することが患者さんの治療に対するモチベーションを高める観点からも大切です。

1）Herman WH et al., Diabetes Care. 2015;38:1449-1455.
2）Mariam A at al. Diabetes Care 2021;44:1410-1418.

講演 II

進化する糖尿病薬物療法
～配合薬の有用性を考える～

川崎医科大学 名誉教授／川崎医科大学総合医療センター 特任部長

加来 浩平 先生

1973年 3 月　山口大学医学部卒業
1977年 3 月　医学博士（山口大学大学院医学研究科）
　　4 月　山口大学医学部第3内科助手
1986年 7 月　米国ワシントン大学（セントルイス）内科学代謝内分泌部門留学
1990年 1 月　山口大学医学部第3内科助教授
1995年10月　ノボノルディスクファーマ（株）取締役開発本部長
1998年 4 月　川崎医科大学内科学（糖尿病）講座教授
2002年 4 月　川崎医科大学内科学講座主任および附属病院副院長
2013年 4 月　川崎医科大学特任教授、川崎医療福祉大学特任教授
2021年 4 月　川崎医科大学名誉教授、
　　川崎医科大学総合医療センター特任部長
　　川崎医科大学糖尿病代謝内分泌内科特任研究員

糖尿病治療の目標は「健康な人と変わらない人生」を歩んでもらうことであるが、患者さんの思いや願いは「健康で長生き・不便、不安、苦痛のない生活・ポジティブな人生」であると考えられる。昨今の大規模臨床試験より、グルコースメモリーやレガシー効果の存在・多因子介入の重要性が示唆されている。それと同時に血糖目標値の達成を目指した糖尿病治療のリスクとベネフィットのバランスを考慮した患者中心のアプローチも重要である。
今回の講演では、2型糖尿病治療におけるメトホルミンとDPP-4阻害薬の併用意義とともに、いまいちど配合剤の有用性を解説し、患者ファーストの治療とは何かを考えたい。

主催：住友ファーマ株式会社